

**製品名: リン酸化 ULK1 (S556) (5G1) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe06045**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000
分子量	113kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ULK1
別名	ATG1; ATG1A; hATG1; ULK1; UNC51;
遺伝子 ID	8408.0
SwissProt ID	O75385
免疫原	ヒト ULK1 の Ser556 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

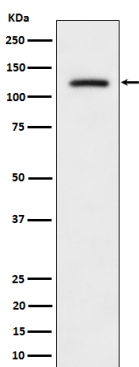
**背景**

飢餓に応答するオートファジーに関与するセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ。ホスファチジルイノシトール 3 キナーゼ PIK3C3 の上流で作用し、オートファゴソームの前駆細胞であるオートファゴフォアの形成を制御する。飢餓に応答するオートファジーに関与するセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ (PubMed:18936157, PubMed:21460634, PubMed:21795849, PubMed:23524951, PubMed:25040165, PubMed:31123703)。ホスファチジルイノシトール 3 キナーゼ PIK3C3 の上流に作用し、オートファゴソームの前駆体であるオートファゴフォアの形成を制御します (PubMed:18936157, PubMed:21460634, PubMed:21795849, PubMed:25040165)。オートファジーにおける制御フィードバックループの一部であり、RPTOR との相互作用を介して、哺乳類ラパマイシン標的タンパク質複合体 1 (mTORC1) の下流エフェクターおよび負の調節因子として機能します (PubMed:21795849)。AMPK によるリン酸化を介して活性化され、AMPK サブユニット PRKAA1、PRKAB2、および PRKAG1 のリン酸化を媒介することで AMPK の調節因子としても機能し、AMPK 活性を負に制御します (PubMed:21460634)。ATG13/KIAA0652 および RPTOR をリン酸化する可能性があります、そのようなデータには追加のエビデンスが必要です (PubMed:18936157)。神経分化の初期段階で役割を果たし、顆粒細胞の軸索形成に必須です (PubMed:11146101)。また、SESN2 および SQSTM1 をリン酸化してオートファジーを制御する可能性があります (PubMed:25040165)。FLCN をリン酸化してオートファジーを促進します (PubMed:25126726)。オートファジー誘導に応答して AMBRA1 をリン酸化して、細胞骨格ドッキング部位から AMBRA1 を遊離させ、オートファゴソームの核形成を誘導します (PubMed:20921139)。

## 研究分野

シグナル伝達、タンパク質リン酸化、Ser/Thr キナーゼ、神経科学、神経プロセス、神経発生、心血管、心臓、オートファジー、代謝、経路とプロセス、ミトコンドリア代謝、ミトファジーの分裂と融合

## 画像データ



ULK1 細胞溶解物を導入した 293T における Phospho-ULK1 (S556) 発現のウエスタンブロット解析。